

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第5回高松市創造都市推進懇談会
開催日時	平成25年6月19日(水) 18時30分～20時40分
開催場所	四番丁スクエア 会議室
議 題	(1) 推進ビジョン主なプロジェクトについて <ul style="list-style-type: none"> ・「生活工芸」 ・「祝祭」 (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	人見会長，甘利副会長，鎌田委員，中筋委員，西成委員，英委員，真鍋委員，山家委員
事務局	松本，東原，佐々木，佐野，溝渕，永木，南部 西川，乙部，松下，上野
傍聴者	0 人 (定員 5 人)
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過および審議結果

(1) 「創造都市推進ビジョン」主なプロジェクトについて
～生活工芸～

事務局から資料の説明

(会長)

まず、本日欠席の中田さんから事前にメールで漆器業界の立場からの問題点と展望について意見をもらっているので紹介する。

問題点は、売り上げの低迷と後継者不足である。業界全体の売上高はピーク時の1/4以下で現在は16億、昔は70億であった。組合所属企業数はピーク時の1/5以下で昔は260社、現在51社。漆器産地として総売上高は高い方だが、それは「漆家具」があり単価が高い。小物漆器の売上高は比率としては低い。

もう一つ、漆器の品質表示の曖昧さがある。木に漆を塗って仕上げたものが、「漆器」だが、今現在お店で売られている漆器のほとんど「漆器」ではない。いいものが置いてあると思われている百貨店ですら、木と漆の「漆器」は少ない。1000円以下なら間違いなくウレタンなどの化学塗料かカシューなどの代用漆だ。したがって、漆といいながら品質表示が曖昧なゆえに本物かどうか分からないということである。

ちなみに中田漆木は表示したカードを商品に同封している。品名として漆器、表面塗装の種類として天然漆、素地の種類として天然木、製造者は中田漆木と書いている。

審議経過および審議結果

それと、大産地（山中・会津）や大企業が率先して合成樹脂製品・ウレタン塗装製品・外国産製品に対して国の定める伝統的工芸品マークを勝手に使用している。そのあたりが、消費者の信頼を失い、売り上げの低迷につながっていると考えるそうである。

それから、時代の変化と需要の低迷について。時代の変化については、各家庭にも食洗機が導入されたが漆は食洗器に対応していない。

また、漆器を一度も触ったことのない人も多いということで、幼少期の学習の話であると思うが、取り扱い方が分からないというのは幼少期からの経験不足なのか。

次につながる後継者作りが急務であると書いている。例として、漆掻き職人は四国で3、4人しかしない。木地師は数社で、若い人がいない。ろくろ木地を挽ける人がほとんどおらず山中などへ外注している。

それと次世代の話をする点で避けては通れないのが教育機関だ。現状、高松工芸高校の漆芸コースを出て漆をやる人間は、ほとんどいない。日本全国で輪島と香川県にしかない県立漆芸研究所を出て漆で生活している人はどれだけいるだろうか。もちろん卒業生全員がその仕事にはつけないのだけれど。

幸い私も中田漆木には研究所修了生が3人いる。父・弟・妻だそうだ。私は研究所へ入っていない。すべて父と弟に学んだ。現在、県外出身者が9割を占めており、修了しても香川には残らず地元へ戻ってしまう。残ったとしても漆の仕事はなく、アルバイトをしながら自分のものづくりをしている現状である。次に、展望と願い、展望は販売とサービス。「売れるためにはどうするか」ということをもっと深く考える。ニッチなニーズにも対応したい、修理などのサービス拡充をしたい、料理教室と合同で盛り付けや取扱いの教室をしたい、今までとは違う用途への転換。器だけではなく、生活用品や建材にも使いたい。それから、地場産業とツーリズムをかけたようなものにも手をかけたい。職人の後継者作り、漆器を知ってもらう為に子供向けのワークショップを開く。小学校向けの実習時間、食育の観点からも自分で作ったもので食べる事と自分で片付けなどの管理をする事は望ましい。もちろんお箸やスプーンからでもいいし、どうやったら壊れるのか、扱い方を早い段階で知って欲しい。大人になって漆器を使ったことがないどころか触れたこともないから両手で恐る恐る触って落とすという人もいる。上記のことができる人間の早期育成がしたい。消費活動と異なる為全く別の財源や人間の意識が必要とされると思います。それにこれを行える教育機関があるのか難しい所。

また、中村委員も本日欠席であるが、本人から石あかりの取組みを発表したいということなので次回してもらう。

～祝祭について～

目的については、「市民芸術活動の種が芽吹きやすい寛容性のある文化土壌を活かし、イベントの国際化支援により、世界中からの観光客の集客に取り組みます。」と書いている。つまり国際化をしていこうということである。

（委員）

国際芸術祭なので、いろんな国の方がたくさん来られるのはいいことだが、現状で高松市がどの程度国際化の状況なのか知らない。瀬戸芸のアンケートで、非常にアジアの方々が多いというのはデータとしてあるが、そもそもこの土壌にどのくらいの外国の方が住んでいるのか、どれくらいの交流があるのかどうか分からない。そもそも、交流はあるのか？

（会長）

国際交流？

（委員）

そういうところに行かないので分からないのだが。

(委員)

さきほどもあったように、そういうところに行かないとない。積極的に国際交流をやるといったイベントがないと交流できていない。

盆栽は、アスパック以降、生産地では著しく交流が増えていると聞いている。

(会長)

売り込んで PR しようという視点はいいと思うが、一般市民に親しみが薄いものを海外に PR するのもどうなのかと思う。

(委員)

海外に向かうのであれば、一般市民が対象でなくてもいい。

10 年前に漆器業界である和歌山県海南市で開かれた会に出た。10 年前から、若者向けの IKEA とかで売っているようなオブジェを漆器で作ろうと取り組んでいるが、需要が無い。

一流のものを持って待っているだけでは誰も買わない。1.5 流のもの+営業力のもの売れる。だから、営業努力をしなければいけない。それを県や市がやってくれると待っていては、どの業界も今後がない。

町ぐるみで応援するならばオープンにしなければいけないと思う。オープンにして簡単にして学校を出ていなくても、なんちゃってで作れる漆器からやったほうがいいのかもわからない。

(会長)

ビール用の漆のグラスが 8 千円する。買いますか？

(委員)

輪島もものすごく高い。店主は売れると思っていない。飾りとして置いている感じ。松阪牛もそうだが、金額だけつけて一般の人は誰も食べない。顧客(輪島なら京都の料亭とか)が買ってくれたらそれでいいから、顧客以外に売るつもりが無い。

(委員)

一番上の「〇個人や市民団体の取り組む「こんまい」イベントの開催」は市民向けなのだろうと思う。

(委員)

そもそもグローバルはしなければいけないのか？

(委員)

市民団体がやっていることでも、それが派生して外国受けすれば発信するということになる。

(委員)

産業を生むという最終的な目標を作って、プレゼンや営業を海外に向けてするのであれば、雇用を生むことができる。漆器業界だけが儲ける方策であれば、やる必要はない。

(会長)

方向はいいと思うが、足元を固めることが大事。

(委員)

合成樹脂の偽物の方が売れるのであれば、需要はそちらにある。

(会長)

国際イベントを仕掛けるときの予算を行政が出しているなら、それと同等くらいの予算を人材育成や市民が買えるプロダクトの価格の半分を助成するといった予算に使えたらいいと思う。

(委員)

話題性で言うなら、モデル地区を決めて、その表札を漆にするとか。全国メディアで紹介されたほうがいい。

(会長)

盆栽はダウンサイズして安くできるが。

(委員)

盆栽にしても、漆器にしても、一言で言うと、現代生活の様式にN o マッチである。香川県の漆製品で一番多いのは、座卓である。しかし、座卓が必要かという必要無い。お椀も重箱にしても買わないと思う。例えば、シュレーに置いているような 아이폰 ケースのように、現代生活、様式に合わせたようにすると、漆を持つ、あでやかさは現代人もいいと思ってくれると思う。それは盆栽も同じことが言えると思う。30万の盆栽を買わないし、マンションにも置けない。

製品のプロダクトを高松市の創造都市に求めるのは違うと思う。また違う予算があると思う。

(委員)

小学校事業でも、本漆使ったら無理だと思う。塗って少し時間をあけてもアレルギーがあると死んでしまう。

(委員)

ヘルシンキのデザインミュージアムが面白い。創造都市を語る上で、その土地に、only one のものが必要だ。

中田さんが言ったような、綴られていた不満のようなものは、伝統工芸のどの業界もそうだと思う。

我々に向けるのではなく、外国人観光客向けのお土産として、いろんな漆器を作り、どんな特徴でどんな仕組みなのか分かりやすく伝えてはどうか。

外国人観光客向けにという切り口で、日常に埋没してきた歴史や伝統を市場化につなげればと思う。

(委員)

盆栽というと日本だけのものではなく、中国やミャンマーのほうが品質がある程度良くて値段も格安で手に入る。高松から国際発信しなくても、すでに国際的に言葉としては流通しているものだと思う。

(委員)

例えば、税金を使うのであれば、盆栽 CUP を高松で開催するとか、世界中の盆栽アーティストが集まるとか、漆器コンテストとして、高松の一地区の表札を優勝者が作るとか。

(会長)

異業種、新商品の開発とあるが、現実味があるのか？

(委員)

京都工業繊維大学は、街づくりにテクノロジーをどう活かせるかをやっている。

(委員)

漆が現代の生活にマッチしないからどうにかしようという議論は、以前からずっと議論されているはず。誰も議論に手を着けていなければ別だが、県も市もずっとやっているだろうし、うまくいかない理由のほうが大きいのでは。

本質的に漆は高単価になってしまうという点で需要にならない。単価が下げられないとしたら、給食に使うとか、生活に取り込むとかは、お金をかけなければいけないので、現実的ではない。

どうやって世界中のお金持ちに売るかというイメージしか沸かない。

高松に根付いていないとしても、ここでのテーマである「生活工芸」なのか？そもそも疑問である。

(委員)

京都の西陣織りや南部鉄器は地元の人には普段の生活では使っていないがそれも生活工芸になるのか？疑問である。生活工芸という言葉がどういうイメージで使われているのか分かっていなくて、本当に普段の生活で使われていると意味を含んでいるのであれば漆は議題として違うと思う。

(会長)

一番上に、「高松の生活に根付いた民藝・工芸の発掘及び伝承」とあるが、ここに漆が含まれているのか？今は含まれる前提で漆の議論をしているが。

(委員)

会津に行ったからといって南部鉄器は買わない。

(委員)

ごく一部の、訓練を受けた職人が作るものに価値があるのは分かるが、それは生活工芸なのか？という疑問がある。

(委員)

応援するしかないから、応援方法の一案をここで考えましょうということ？

(委員)

庵治石もそうだが、価値があるが値段も高い。それがクリエイティブな都市まちづくりのキーとなる生活工芸なのか？

(委員)

タイトルが「伝統工芸」ならわかる気がする。「生活工芸」の意味は、生活に根付いた工芸なのか、それで生活する人を支える工芸なのか。

(会長)

盆栽は生活工芸なのか？

(委員)

わからない。パリの百貨店に持って行ったら売れるのかもしれない、イギリスのコレクターに売れるのかもしれない。売り方を考えていくことには賛成であるが、この会議で話すことなのかという点でピンときていない。讃岐の漆をどう売っていくかというのは応援したい。

(会長)

それは世界の話？

(委員)

それ以外想像がつかない。あるいは、1.5流のプロダクトを量産化するのは一つの産業のあり方として間違っていないと思うが、広い産業を作っていくのか、労働人口を増やすという話もあっていいと思う。

しかし、この漆器は素晴らしいから世界に売るといっているのであれば、一つが1万や2万という器を高松市民の生活から離れて海外に売っていくという以外にやるのが思いつかない。そこの議論の設定をすべきである。

やはり、生活工芸なら私たちが日常使っていくことを含めて産業を盛り上げていくのか、生活の延長に伝統工芸があるというまちづくりをイメージするのであれば、今の議論の方向を変えなければならないと思う。

(委員)

前回欠席したのでわからないが、食についても、もっとグローバルなイメージで高松、香川の食を使ってという議論をしていたのであれば、よく似ているかも。

ただ、現代アートなどで石川や京都と戦って行くのであれば、新しい産業に目を向けたほうがいいのでは。

(会長)

生活工芸というくくりでいくと、うまくやっているのは、IKUNAS だと思う。

素材作りから製品まで、トータルでできる人材の誘致・連携という点ではこういうところでしか活動がないと思う。

(委員)

IKUNAS には漆器で作ったマドラーのようなおしゃれなものが置いている。

(委員)

中田さんもバングルを作っていた。

(会長)

英さんが盆栽をトータルプロデュースしているが、それだけではご飯は食べていけない。

(委員)

盆栽も漆器も、例えばシューレさんでやっている取組みだと、漆器の魅力を漆器だけで出すのではなく、何かと絡めて提案している。例えばこの間は、イタリアンシェフの中野さんに来てもらって、漆器に合う料理としてスープやサラダを食べる企画があった。料理を主にお客さんを集めて、漆器に触れ合う機会を作る。

盆栽展をシューレのギャラリーですることによって、新しいお客さんに来ていただける。

典型展という企画。盆栽としてはいい盆栽ではないが、デザインという枠に入れるだけで急に売れ始める。

違う枠組み・違う人材と合わせることでおしゃれに見える。いいと思える機会を作っていくという活動が盛んな街であることが、創造的だと思う。生活工芸の商談会みたいなことは商工会議所でやればいい話である。

(会長)

トータルプロデュースだけでご飯を食べていける人は世界でいるか？

(委員)

世界レベルで物が売れると食べていけるのかもしれない。

(会長)

こういう人が育成されて、稼いでいくというイメージがわからない。

(委員)

観光という視点から見たときに、それぞれの業界がどういった特徴でどういった製品を作ってきているのかを見られるようなところはあまりなく、あっても説明が不十分である。漆芸研究所もあるが、一般の人は中に入れない。

漆業界として頑張っていると思うが、補助金を出すということに、問題がないのか？補助金を出しているから、業界が変わらないという問題もある。

(委員)

儲けを考えずにやらなければいけない。21世紀美術館も赤字である。

(委員)

儲かるか儲からないかの話は今議論しなくていいのでは。

(会長)

例えば、美術館のロビーの一角で、職人さんが定期的にオリエンテーションするのは？

(委員)

職人さんがいなくてもいいが、そういったことを勉強したくて来ている人もいる。漆芸研究所や高松工芸高校をオープンにして、活用できれば変わるかも。

(委員)

観光というなら、漆器目当てで香川に観光に来る人がどれくらいいるのだろうか。自分の中で漆と香川はまだ結びついていない。輪島だったら輪島塗といったものがあるが。

もし行政がやることがあるとしたら、外に向けてブランディングしていくというように、香川県がうどん県にしたように、高松市を「うる市(漆)」に変えるというようにしたらどうか。

(委員)

漆器だけではなく、高松の歴史だが、日本で工芸高校は3つある。香川は手が器用なところである。作り手の人たちを生み出す環境が香川にあるので、まずは観光として来た人たちに、その仕組みを知ってもらえたら。

(会長)

生活工芸のための観光。

(委員)

香川県が漆器なのか高松市が漆器なのか、創造都市が進めば進むほど、人口の問題が出てくる。例えば人口が似ている富山市のように、富山市は人口が増

えているが、富山県全体では減ってくる。漆器を高松でプッシュしていくのであれば、香川全体の漆器に結びつくまでは減ると思う。

創造都市を進めると、坂出市と丸亀市の人口は減ると思う。二次的には戻るかもしれないが。データとして、今まで推進都市をしたところの周りの市は10年間くらい減る。

(委員)

もし、それで人口が増えるのであれば素晴らしいことである。2年目は「あじい市(庵治石)」というように、そういうくだらないところから、広めてみてもいいかも。うどん県は大成功なので。

(委員)

漆器が生活に結びついているかという点、現状では結びついていない。昔は結びついていたのか？

(委員)

お盆や器はたくさん残っている。

(委員)

高松は他の市と比べて著しく漆製品が多いのだろうか？

(委員)

技術が非常に高く、輪島の漆の人からしても、香川の漆の技術はすごいと聞いた。

(委員)

チューリップといえばオランダというように、盆栽といえば高松とはなかなかない。日本国内においても、輪島といえば漆だが、高松といえば漆としない現状を踏まえて考えるべき。

(会長)

ブランディングが下手だということ？

(委員)

そもそも質はいいのか？

(委員)

湿度的にはもう少し寒いところで作ったほうがいいと思う。後藤塗りなどのように、評価されているのは「技巧」である。

(委員)

ブランディングでいうと、昔、天皇に献上していたという積み重ねで輪島漆がある。

(委員)

どういう理由で守っていきたいか見えづらい。いいものだったらいいが。

(委員)

学校があるのは素晴らしいと思う。

(委員)

技術を教える場はあるが、高松で根付いていない。外にいつてしまう。

(会長)

ニーズが無ければ作らないということは、博物館に献上するために作るしかないのか。

(委員)

そうすると、生活工芸というところが怪しい。

(委員)

ここが生活工芸でなく、伝統工芸だとまた目的が変わってくると思う。

(委員)

再び漆器を生活に戻したいという願いなのか。

(委員)

漆器というのはペーパーにはでてきてない。

(委員)

逆に、生活工芸というと他になにがあるのか？

(委員)

石？

(委員)

伝統があって、今まで続いてきており、技術が高いはずだから絶対守らなければいけないということから始めるとおかしくなる。それは長い間議論されてきたはずである。何百年も続いてきたので。

生活に根付いていないという点から始めるべきであり、逆に、今まであまり無いが、生活に根付きそうだから、これから力を入れていくという考えもあるかもしれない。

今の生活に合って展開し易いといったそういったところから力を入れていく、予算を投入するというような見方もするべきだと思う。それが何かは分からないが。

(委員)

漆芸の技術が、今のニーズに合っていないのであれば、捨てればいいのではないかとと言っても、われわれは漆芸の技術を知らないので勉強しなければいけない。

(参事)

議論を聞いていて、今までやってきたが生活に馴染んでいないという話になっているが、大きく2つに分けることができる。

一つは、生活に馴染むようなアプローチをしてきたが、アプローチの仕方が悪かったので、今の若い世代に波及できていないのではないかというのが一つ。

もう一つは、いろいろやってきてやり尽くされているが、盆栽や石、漆器が持つ技法やものそのものが、一般大衆が買えるようなものとして生き残っていないのではないかということである。

我々は、前者のほうで頑張りたいという希望がある。大衆がどれだけ使ってきたかというのは分からないが、少なくとも高松固有であり、歴史的、文化的な価値があるものとは認識していて、他の都市には無い資産なので、発展させていきたいと思う。

しかし、ここの会議の意見として、生活工芸として無理があるという結論はこの会議の結論として、今の若い世代としてはそういうふうに厳しい見方をしていると結論付けていただいてもいい。できるだけ広く魅力を普及していく方を期待している。

(委員)

おそらく技術が高すぎると思う。技術が高すぎてハイスペックなものになっている。1つのギルドで切磋琢磨して高いレベルのものを作ってきたと思う。逆に言えば、1.5流や2流のものがほとんど流通しなくなってきているからこそ、入り口が1万円からになっている。

例えば、フランスのワインは5ユーロぐらいのものも100万ぐらいのものもある。もちろん我々は郷土愛地元愛があり、もう一步そのクオリティでなくても、値段がお手ごろであったら、手に取りやすいと思う。高い技術で高いクオリティのものだけが流通していると印象がある。

(会長)

業界としての出し値が果たして今どきなのか疑問である。もっとコスト削減などができると思う。

(委員)

伝統だから守るという話があったが、伝統だからその人たちを守ろうといった瞬間に、市場にさらされなくなって、われわれは頑張らなくても、伝統さえ

守っていけば食べていけると思っただめになる。

漆や石も、ある程度補助金で守っていくものは、しっかりと外部の人が指導をして、うまく機能しているかどうか、漆を守り始めてから30年経つと思うが、中田さんの発言のように大きな問題を抱えていると思う。

守ってきたがゆえに出してしまう問題。どうすれば高松市のために漆器業界が開かれていくかというのは、専門委員会をつくって勉強していかないとこの先やっていけないと思う。今後の業界のためにも、このまま伝統だからと守っていたら本質的にはよくないと思う。

(会長)

生活工芸という命名が、目指しているものが我々の生活に溶け込むようになって欲しいという願いを感じられるような名前だということである。

願いの方向は悪くないと思う。我々の暮らしに根付くものができてくる。

(委員)

業界を正しい方向に変えられれば。

(委員)

前者として答えはいるのか。

(参事)

どれだけここで決めるかは任せるが、ご意見はいただけたと思う。

(会長)

私は、守る方向でいいと思う。N o 漆 N o 高松。

(委員)

例えば、レディガガに Japanese 漆器だといって香川漆器を渡したら売れると思う。韓国では、ハリウッドスターが別荘を建てたらその周りが高級住宅地になって、国中のハイソな人が住みだした。女木島にリチャードギアが別荘を建てたら、すごい島になると思う。天皇に献上してきた歴史がないのであればそういう方法もある。

(会長)

そういった方法と、生活に根付くような方法と、ブランディングだと思う。

(委員)

漆器は伝統工芸業界のトップクラスにあると思う。ヒエラルキーが邪魔しているのかも？

(委員)

英語で漆器といえば JAPAN となって、CHINA では土器となる。発祥は中国でも、中国のものではなく日本のものである。

(参事)

漆器や石、盆栽以外で、手まりのように工芸として思いつくものがあれば出していきたい。

(会長)

ここには、菓子木型と家具と書いている。

(委員)

曼陀羅はどうか？

(委員)

うどんは観光産品でもあり、日常食でもあるというところが面白い。信州そばは、有名だけど地元の人はそのなかに食べていない。そういう点で、さぬきうどんはすごいと思う。漆器や盆栽の観賞方法をみんなが知って日常生活に取り入れられれば変わるかも。

(会長)

情報発信やブランディングが大事。

(委員)

地元の育成と、世界に発信していくもの、両方が必要。

(委員)

どんな伝統も香川は変えてしまう。いつも変えてしまうというのも面白いと思う。

(会長)

子供に手まり使わせたいと思うが、高すぎて使わせられない。それこそ1.5流でいい。

(委員)

漆器と検索したら、香川は上位には出てこない。輪島，紀州，山中，芝山が出てくる。

～祝祭～

(会長)

祝祭についての取組みイメージの説明

(会長)

祝祭で、瀬戸内サーカスファクトリーをやっている田中さん。彼女が北海道出身で、北海道には獅子舞がないらしい。香川には獅子舞があって、そこに老若男女が集い、仕事が終わって練習に集まっている光景そのものに価値を感じる。なぜかという祝祭そのものが世代を超えた求心力で、そこで様々な世代間交流が行われている。こういった光景がある地域ならば地域力があるのでは。

祝祭がピアノコンクールのように外から持ってくるものあっていいと思うが、基本的には地域コミュニティーの交流の柱となりうるもので大事にしたい。

映画祭は香西さんがやっているのか？

(委員)

そうです。スタッフは県外人が多いと思う。

(委員)

秋田では6，7年前に韓国の恋愛ドラマ映画誘致で、観光客の大ブームがあった。

(会長)

芸術祭は、丸亀の方でもあるが、地元の協力などはあるのか。

(委員)

あります。

(委員)

「こんまい」イベントは、コミュニティーの活動のこと？夏祭りとか。

(委員)

高松まつりが創造的でない。

(委員)

今年はディズニーが来るので国際的である。

(委員)

個人的には盆踊りを戻したら面白いと思う。

(委員)

高松に来て最初感じた違和感は、お祭りには参加するのではなく、遊びに行くという感覚である。岸和田出身なので。

(委員)

川東の校区で第1回の夏祭りを開催することになったが、その前に、ちゃらちゃんまつりがあった。平安時代から続いている盆踊りがあって。たまたま、お嫁に来たときにオランダから歌詞を教えてほしいというメールがきて、近所のおじいさんやおばあさんに話を聞いているうちに、これは残さなければいけないと思った。

市の方が視察にきて驚かれたのが、盆踊りは、最初はCDで、最後は生で歌うことである。そして、川東の人から川東でも夏祭りがやりたいということで、若い人たちに声をかけて、いつもバザーでお世話になっている人たちには来て

もらうだけで、コミュニティーの人材育成のために若い人たちに参加してもらってコミュニティーの活動を知ってもらい、盆踊りや歌を残していこうということで今回やることになった。獅子舞もそうであるが、そういう地区に残っている若手がいなくなると、5団体中1団体は休眠状態になっていて、違う地区でも獅子舞をやりたいという人が集まってできたらいいなと川東全体で考えている。

(会長)

文化も形骸化のようなイメージをしていて、祝祭がピラミッドの一番上の部分だとすると、下の部分は、獅子舞であれば、日ごろの農家の生活とかがあると思う。そういった暮らしの変化とともに無くなっているのに、上の部分だけ残そうというのは。ピラミッドの下の部分を日ごろからどう耕していくかという視点がいると思う。

(委員)

最近では、参加するのではなく見るだけになっている。うどんの場合は我々が喜んで食べているから、他都府県の人が食べたいと思うのだろう。

(会長)

トライアスロンの場合、ウォーキングやランニングをしている方が増えてきているのはそういうことなのかなと思う。国際ピアノコンクールがの中で際立って違うと感じる。どこかから持ってきたものを国際的にやろうかというだけである。香川県のピアノを習う人口が増えたのかもしれないし。香川県が音楽の新興県になればこの取組みも光ってくると思う。

(委員)

獅子舞保存会の数は人口で割ったら日本一らしい。香川に来てびっくりしたのは、獅子舞である。

(委員)

どんどん減ってきている。No. 1 だったとしてもそれをどうなくさないでいくか。

(委員)

観光として獅子舞を売り出してもいいと思う。

(会長)

その方向は大賛成。しかし、今のままだと商売にするしかなくなるようになってしまう。

(委員)

獅子舞を商売にしなくてもいいと思う。

(会長)

日常のものではなくなってしまうということである。見世物のために劇団がするようなものになってしまう。

(委員)

それが文化的に正しいかどうかの議論。例えば、獅子舞目当てに高松に来る観光客が増えたら市場効果は高いと思う。

(委員)

獅子舞は他県にないの？大阪は？

(委員)

あるけど、ゲリラ的にいきなり店の前に来て2、3人でやるというのは無い。

(委員)

生活に根付いている

(委員)

お祭りのときは来るものだとして、一升瓶とかを準備して待っているものだ。

(委員)

すごく大きな獅子舞を一つ持参するとか。

(委員)

お祭りももともとは、権力者の強制力から始まったもので、秀吉がやれといったことを農民がやっただけで、最初は強制でやっていた。

(会長)

祝祭とコミュニティー活動がリンクするイメージがほしい。

(委員)

トライアスロンも、何年か以内に1種目でも一般市民が参加できるようになればいいと思う。

(委員)

そこで獅子舞やればいいのかも。

(委員)

自治体から獅子を集めて雨乞いをしてもらったら。

(委員)

獅子舞サミット。獅子舞48。

(委員)

やりたい人全員が入れないと意味がない。

(委員)

香川の西に大野があるが、昔そこに住んでいた人が北海道に行ったときに、獅子舞を持って行ったらしい。今も、北海道のそこでは獅子舞をやっている。それは香川が発祥らしい。

(委員)

今は、獅子舞と云ったら、やってるわという風に引いている。

(委員)

子供の頃から聞いていると、お嫁に言ったときに、音の高さや鐘の大きさも違うし、見る楽しみはあると思う。

(委員)

頭ひとつでも一つ300万すると思う。

(委員)

獅子舞を作る人はどこにいるのか？

(委員)

京都にいる。

(委員)

それこそ高松でやったらと思う。

(委員)

獅子頭の大きさによっては高松でやっている。

(委員)

伝統工芸のノウハウを使っていい獅子ができるかも。

(委員)

ここに入っていないということは意図が違うのか？

(委員)

祭りを中心に人が集って、コミュニケーションがとれるというのはいいと思う。

(委員)

祭りをちょっと横から見て、やっているわーという目をなくさなければいけない。

(委員)

そういう県民性なのかな。

(委員)

高松まつりの踊りの中に入っていくのは恥ずかしいと云っていた。やっている人も大半がやらされている感がある。

花火大会も数打てばいいのではなく、1発3尺玉あげるとかいうほうが面白いとおもう。

(委員)

一発いくらかで市民に販売するとか。メッセージ花火みたいな。

(委員)

残り何円で3尺玉出ますとか。中央公園からでもビルを超えて見えますとか。

(委員)

祭りも歴史あってのもので、新しく作るのか、もともとあったものをビルドアップしていくのか。

(委員)

昔は、高松まつりも盆踊りだったのが、よさこい祭りのように曲を変えたのが事の始まりなのか。

(会長)

祝祭に高松まつりが欲しい。

(委員)

香川には雨乞い踊りもあるらしく、ユネスコ登録を目指してもいいかと思う。それが世界発信であり創造都市なのかなと思う。ただの踊りだけではなく、雨乞いを踊ったほうがいいのではないか。

(委員)

最近の取組を書いているが、もともとあるものを伝えていきたいと思う。島の祭りも、女木に太鼓台というのがあるが、若い人がいなくて担げなくなった。芸術祭で面白いのは、イベントカレンダーがあって、島の祭りだとかが記載されている。そういうものを統括した上で、もともとあるもののレベルをきちっと見据えた上でやらないといけないと思う。

(委員)

サーカスもトライアスロンも民間が成功しているので、行政に対して成功のイメージを伝えるものとしてはいいと思う。

(委員)

対国際、対県民にして、県民が全員獅子舞をやっていたら見に来ると思う。

(委員)

これだけうどん目当ての観光客がいるのに、うどん祭りが無い。単純に、ドイツのビールもフランスのワインも、産地だったら必ずイベントがある。ボルドーでは、ワインを飲みながら畑をマラソンするというイベントがあって大人気である。うどんでは、50軒くらい集まってきて祭りをやるとたくさん人が集まると思う。

(委員)

普段は車で回らなければいけないが、それで終わらせることができる。

(委員)

うどん早すすり祭りはどうか？

(委員)

店が離れすぎて比べることができない。

(委員)

山奥に行くのは上級者である。

(委員)

いろは市場にうどん屋を集めたらいいと思う。

(委員)

うどん業界に入っていないうどん屋もある。

(委員)

そういうアイデアが創造的だと思う。

(委員)

うどん初めて県に来た人でも、店員が来てくれるものだと思ってセルフなのにずっと座っていたということを知ったことがある。

(委員)

うどん屋に入って、その店のシステムをすぐに掌握するのは難しいと思う。

(委員)

4月の下旬に徳島ラーメン博をやっている。徳島ラーメン店が20店舗くらい集まりものすごく人がやってくる。そして横で阿波踊りをやっている。徳島ラーメンを売っていきこうという強い意思の表れである。絶対人が集まるのは分かっているのでやりたい。「また、うどん？」になって、一番の起爆剤になるのに祭りをやっていない。しかし、まだまだうどんなので。

(委員)

若い女性は「うどん食べてる？」って聞いたら、食べていないという。うどんを毎日食べているっていうのを言うのが恥ずかしいのかな。

安くて牛丼を食べるイメージだと思われるのなら、そのイメージを変える機会である。

(委員)

山越とかなかなか行けないが、フェスタだったら行こうと思う。

(委員)

うどんやおでんは重要。

(委員)

毎回、徳島のラーメン博は、東京の超有名ラーメン店を呼ぶ。緊張感がある。うどんまつりなら丸亀製麺所を置いたらどうか。

(委員)

香川で一番集客できるのは、無料入場グルメ市である。

(会長)

丸亀製麺、はなまる、めりけんや

(会長)

さぬき映画祭は県外の人 coming のか？

(委員)

全国的にみると無名だろう。テーマがふわっとしているからだと思う。山形でドキュメンタリーをやっていたり、秋田の韓流など、フォーカスできていないと思う。今のままでは県外から来ないと思う。

(委員)

一度007を呼ぼうとしていましたよね？

(会長)

質の問題はあるか？

(委員)

お金かけていないのは、目をつぶらなければいけない。出演もボランティアが多い。

(会長)

それも問題だと思う。

(委員)

市民がたくさん顔を出すという意味では、交流空間になっていると思う。収益になっているかどうかは別にして。

(会長)

交流空間というキーワードがほしい。

(委員)

野菜うどんだけの祭りはどうか。

(委員)

県外の人 coming ののでは。

【事務連絡】

以上